

経済環境委員会記録

1 日 時 令和6年2月15日（木曜日）
開 会 午前10時58分
閉 会 午前11時39分

2 場 所 第1委員会室

3 出席委員 8人
委 員 長 久 保 大 憲
副委員長 柏 佳 枝
委 員 藤 田 克 樹
// 織 田 伸 一
// 豊 岡 達 郎
// 舍 川 智 也
// 高 道 秋 彦
// 大 島 満

4 欠席委員 1人
委 員 吉 田 修

5 説明のため出席した者

【商工労働部】

部長	山本 貴俊
部次長	長 康博
部次長（コンベンション・薬業物産・観光振興担当）	若松 潤
コンベンション・薬業物産課長	大釜 嘉徳
商工労政課主幹（調整担当）	桑名 純一

6 職務のために出席した者

【議会事務局】

議事調査課長	坂口 輝之
議事調査課主査	中村 千里
議事調査課主査	白山 江梨花

7 会議の概要

委員長 ただいまから、経済環境委員会を開会いたします。
吉田委員から都合により欠席するとの連絡がありましたので、御報告いたします。

〔報道機関のテレビカメラ撮影を許可〕

委員長 審査に先立ち、委員会記録の署名委員に、織田委員、
豊岡委員を指名いたします。
本日の協議事項は、くすり関連施設についてであります。
これより、当局の説明を求めます。

商工労働部長 〔挨拶〕

コンベンション・ 〔委員会資料により説明〕
薬業物産課長

委員長 ただいまの説明について、質問はありませんか。

大島委員 前の整備予定地であった図書館旧本館跡地は十分な
延べ床面積を想定していたと思うのですが、
アーバンプレイスの延べ床面積はどのくらいか教えて
ください。

コンベンション・ アーバンプレイスの3階、4階を予定しておりまし
薬業物産課長 て、3階が約1,100平米、4階が約1,000
平米であります。

大島委員 オーバード・ホールの大ホールがこれから約2年の
改修期間に入ると聞いておりますが、その影響につ
いては考えておられますか。

コンベンション・ くすり関連施設が完成しましたらオーバード・ホ
薬業物産課長 ールの大ホールや中ホールとの連携など密接に関わる
部分もありますが、現在は検討段階ですので影響は
ないと考えております。

- 大島委員 委員会資料３ページに今後の予定として、民間活力導入可能性調査の実施に向けた検討を行うと書いてあります。これまでの計画であれば１０億円くらいの事業規模だったものを今回見直しし、事業費の平準化に加えて、１０年か１５年の管理費も含めて民間活力導入可能性調査の実施を検討されるのだと思うのですが、これは必要なことかどうかお伺いします。
- コンベンション・薬業物産課長 １０億円という事業規模は１つの目安になるかと思いますが、くすり関連施設の整備形態や運営方法に民間のアイデアを取り入れることでより魅力的な施設になり、また、良好な運営が実施できることを期待し、ＰＰＰ手法で行うことを前提としております。
- 大島委員 この調査は必ずしも必要ではない気もするのですが、これだけ長い間十分に計画を練っている中で、もう少し市も関与してはどうかと感じています。
といいますのは、全て民間に丸投げするような形にならないかと心配しておりまして、市職員の方も才能や能力、アイデアを十分に持っていると思いますので、必ずしもＰＰＰ手法にこだわることはないという意見でございます。
- 藤田委員 令和元年度に行ったくすり関連施設におけるＰＰＰ導入可能性調査の概要についてお伺いします。
- コンベンション・薬業物産課長 令和元年度に行ったＰＰＰ導入可能性調査につきましては、平成３０年度に策定した基本構想・基本計画で城址公園と一体となった薬と親和性の高い民間収益施設や公共施設がうまく絡み合うように検討することが求められたことから調査を実施したところであります。
アンケート調査なども行いまして、その結果、民間事業者にとって収益の課題があることやにぎわい創出の観点から施設単体での整備ではなく、公園全体の魅力を高める必要があるという結論が出たと受け止めております。

- 藤田委員 令和２年度に行った城址公園におけるパークマネジメントの検討結果も影響するのかなと思うのですが、その点についても教えてください。
- コンベンション・
薬業物産課長 城址公園におけるパークマネジメントは城址公園全体のマネジメントであり、くすり関連施設はその中の１つでありました。こちらでも民間収益施設として、薬と親和性の高い薬膳料理店やレストラン、集客の見込める博物館などとの複合化を検討しなければならないという結論でした。検討を進めようとしていた中、コロナ禍で中断したという形です。
- 藤田委員 令和元年度に行ったPPP導入可能性調査と今後行う予定の民間活力導入可能性調査の違いについて教えてください。
- コンベンション・
薬業物産課長 基本構想・基本計画は従来のを踏襲すると申し上げましたが、整備予定地が変わり、延べ床面積が小さくなるということもあって、最適な運営形態、あるいは設置主体なども含めて改めて検討が必要となります。整備予定地周辺にどのような効果がもたらされるのかということも期待しつつ、民間活力導入可能性調査を行いたいと考えております。
- 藤田委員 話が少し変わりますが、民俗民芸村の売薬資料館との差別化についてはどのように考えていますか。
- コンベンション・
薬業物産課長 売薬資料館は市教育委員会が所管する博物館であり、特徴としては、歴史的に価値があるものを展示しています。一方で、今後整備を予定しているくすり関連施設については、より観光、産業に近い形になるものと考えています。
くすり関連施設に来ていただいて、もっと薬について知りたいと感じてもらい売薬資料館に誘導できるような仕掛けにも期待しております。
- 藤田委員 先日、富山駅で福井県をPRするイベントが開催され、恐竜の着ぐるみのようなものを用いるなどして、

その魅力を発信していました。これから北陸新幹線の敦賀延伸で観光客の取り合いが始まると思います。説明を聞いていると、駅から近くて便利な場所で薬都とやまをPRする拠点の整備を進めるという考えだと思います。いかに集客しPRするのかということの最終的なゴールがワンダー・ラボの跡地での施設整備だと思うのですが、その前に企画展示などから少しずつ取組を広げていけばいいと考えますが、そういった点について考えをお聞かせください。

コンベンション・薬業物産課長 おっしゃるとおりだと思います。
当然、後世に伝えるべき古い薬業資料として、懸場帳や柳行李などを使って富山の売薬を伝承しつつ、PRする要素をふんだんに盛り込みたいという考えから民間導入可能性調査を行い、民間と市のアイデアを融合させてよりよい施設にしたいと考えております。

藤田委員 最後に、そもそも民間活力の導入が困難であることや、市の事業としてうまくいかないことも想定されると思います。そのような場合は、手応えを見ながら事業の中止や変更について検討してはどうかと思いますが、見解を伺います。

商工労働部次長
(コンベンション・薬業物産・観光振興担当) この方針を御了承いただければ民間活力導入可能性調査に入っていきたいと考えています。もちろんその調査の結果ありきということではなく、調査の中で民間事業者のサウンディングや、民間事業者を募集するとしたらどのような条件がふさわしいのか、施設の構成をどうしていくのかななどを精査していくことになります。そういった可能性についての調査ということになります。

藤田委員 この先、近隣の県と観光客を取り合うことになると思いますので、この事業をしっかりと意義のあるものにしていただきたいと思います。

大島委員 民間施設を賃借して事業を進める場合に、国や県の補助は適用されるのですか。

コンベンション・
薬業物産課長 今、担当課に確認しているところでは、設計や整備に対して国庫補助のメニューがありますが、賃借についての補助は見つかっておりません。事業費が幾らかかるのかはまだ分からないのですけれども、引き続き、利用できる補助金を探していきたいと思っています。

大島委員 設計や整備に対する国庫補助は、どのような内容ですか。

コンベンション・
薬業物産課長 今、事業計画を立てて国に申請する段階ですので、必ず該当するというものではないのですが、例えばまちなかで公共事業などを整備してにぎわいを創出するような事業や先端技術を取り入れた施設に対する補助金を考えています。

大島委員 先ほどから対象を観光客にシフトしているように聞こえます。ワンダー・ラボは科学や実験に好奇心や興味を持った子どもたちがたくさん訪れていたという実績がありますから、その跡地に施設を整備するのであれば、富山市の子どもたちが薬業、薬剤師や研究者に対して少しでも興味を持つきっかけになるようなレベルの高い施設にしなければならないと考えます。観光客を集めることも大事なことです。それは一過性のものでありますので、ありきたりな内容では絶対にうまくいかないと心配しております。ノーベル賞を受賞された本庶 佑先生、田中 耕一先生、利根川 進先生など、富山市にゆかりのある方々の成果についても、富山市の薬業が寄与していると思います。富山市内の企業でも、富士フィルム富山化学株式会社が新薬開発のために工場を新設するなど設備投資を進めております。そういった薬業の先進的な取組については、基本構想・基本計画に含まれていないのでしょうか。今までの説明では、あまりにも観光客の集客に力を入れ

た施設だと感じてしまうのですが、いかがでしょうか。

コンベンション・
薬業物産課長 整備予定地を富山駅前に見直ししたことの経緯やメリットについて説明しましたので、観光色が強いように思われたのかもしれませんが、この施設につきましては、薬都とやまの精神と歴史を継承し、富山の売薬がいろいろな工夫をしたことで全国に広まっていたこと、また、薬の周辺産業として本市の印刷業やガラス産業が発展し、さらに薬業資本によって電力会社や銀行が発展していったというような、今の富山市の産業の礎になったものが薬であるということを伝えたいと思っております。

薬の過去、現在、未来といったようにその過程をしっかりと描いて、富山市の子どもたちにその歩みを見ていただいて未来につなげることを基本計画の軸としておりますので、この姿勢は失わずに整備していきたいと思っております。

大島委員 今の説明を聞いて少し安心しました。

P P P手法というかコンサルタントに任せると、集客に力を入れた売上重視なものに走りがちになるので、市から絶対に外せないコンセプトをしっかりとっていただきたいと思います。特に薬瓶のガラスやパッケージ、デザインについて、富山市は突出して優れた人材や製品を出しておりますので、コンサルタントに丸投げしないようお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

コンベンション・
薬業物産課長 おっしゃるとおりだと思います。民間に頼るのは事業をより効果的にする部分で、P P P手法であっても市が譲れない肝の部分がありますので、そこはしっかりと固めて進めていきます。

舎川委員 大島委員に付け加えのような形になりますが、産業界や学会から薬業関連の教育施設を強く求められております。この整備予定地については以前、北陸電力が子どもたちの科学や電気に関する学びの施設と

してワンダー・ラボを設置されておりまして、非常に多くの子どもたちでにぎわっております。

今、富山北部高校では薬関連の学科が設けられており、教育が行われているところですが、富山市で薬について学べる場所は数少ない状況です。観光と併せてということになるかもしれませんが、薬業を支える人材を育成するために幼少期から学び、様々な知見を得ることができるような形で、今後の富山市の薬業界の発展に資するくすり関連施設にさせていただきたいと思っております。部長の所見をお聞かせください。

商工労働部長 薬剤師などの不足もよく聞きますので、この施設では薬業から派生して富山市の産業が築かれているという成り立ちなども紹介しながら、実験なども取り入れて、舎川委員がおっしゃるように、子どもたちが将来、薬業関連の職業を目指すきっかけとなるよう、薬関連産業を支えるための要素も入れながら整備を進めていきたいと思っております。

委員長 ここで、委員会条例第44条により、私から委員としての発言を行いたいと思っておりますので、一旦副委員長と交代いたします。

〔委員長と副委員長の交代〕

副委員長 それでは、委員長に代わってしばらく委員長の職務を行います。

久保委員 まず、過去の経緯として図書館旧本館跡地にくすり関連施設を整備しようといった機運があって、関連する予算についても議会で審議し、可決しているということは十分理解しております。

ただ、コロナ禍の影響があったり、薬業界でも大きな問題に直面したりと、業界全体の流れも基本構想・基本計画を策定したときから大きく変わってきている状況で、くすり関連施設の位置づけは大きく変わっている可能性も十分あると思います。

こういったことをやろうと決めてある程度進んでいた話でしたが、場所や条件が変わるので再調査をしたいということに関しては、当然のことだろうと思いますし、その意図について賛同します。また、商工労働部では観光分野の事務も所管されていて、例えば春にはホタルイカ、秋にはおわら、それ以外にも産業観光などの様々な富山市のコンテンツがありますので、このアーバンプレイスをくすり関連施設だけで活用していくのではなく、もっと幅広く検討していただきたいと思います。

もう１点、城址公園でのPPP導入可能性調査やパークマネジメント事業としての可能性調査では厳しい結果が出たと先ほどの説明でも伺いましたので、万が一アーバンプレイスにおいても十分な費用対効果が見込めない、もしくは民俗民芸村の売薬資料館を活用することで十分な効果が得られるということであれば、無理にくすり関連施設を整備する必要はないと私は思っております。今後、インフレに入り、市の歳入は毎年、過去最高額を更新していく時代になっていくと思いますが、一方で公共施設の老朽化や、物価高騰による事業費の増大など、実質的には裕福にはならないと思いますので、今後の厳しい財政状況の中で果たして税金を投じるに値するだけの効果が見込めるのか、ここは本当にシビアに判断していただきたいと思います。

最後に、こういった事業について、一番のネックはやめどきが難しいことだと思います。一旦事業を始めると、これまでの経緯などからなかなかやめるきっかけがなく、引きどきが難しいところがあります。実際に事業を進めることになった場合でも、当初の見込みやメリットが十分発揮されなかったときに、どの時点でやめることを検討するのかといった部分についても明確化できるように調査・研究していただきたいと思います。

今までのように決めたものを議案として説明するのではなく、議会側にも随時進捗状況等を共有していただき議論を重ねていくことも必要ですし、市民が納得できるような施設でなければ議会としても簡単

に賛同はできないので、そういった前提に立って今後の検討を進めていただきたいと思います。

これは一委員としての意見ですが、今後の検討にぜひ反映していただきたいと思います。部長の所見をお聞かせください。

商工労働部長

くすり関連施設というのは、間口の広い施設だと考えております。薬は富山市の主要産業なので、それを切り口として、観光、教育、ひいては富山の未来を概観できるような施設にしたいと考えております。その中でホタルイカの情報まで発信できるのかはちょっと分かりませんが、やはりこれから先の運営等を考えると薬だけでは難しい面もありますので、様々なコンテンツをつなげた形を検討していかなければならないと感じています。

富山の売薬一配置薬については苦しい状況だと一般的に言われておりますけれども、県ではバイオテクノロジーや創薬などの分野にも力を入れていますし、また、富山大学や富山県立大学でもいろいろな研究が行われておりますので、そういった知見も得ながら未来を見据えられるような施設にしたいと考えている次第です。

また、私たちは前向きにこの施設整備事業を進めようとしている立場でありますけれども、ある程度実施してみてどうするのかというやめどきの判断については、この事業だけではなく全ての事業について言えることだと思います。

久保委員

部長のおっしゃることもよく分かります。ただ行政の仕組み上、先輩方が決めていった方針を覆すことは大変苦勞を要するので、方針を決める側の責任として目標を設定して、目標に至らなかった場合にこういった検討を始めるといった準備をしていただくことがこれからの行政に必要なことであります。部長のいろいろな行政経験を生かして、後進の方々の指針となるように事業を進めていただければいいと思います。

また、このような案件が上がってきますと、これが

規定路線で事業が進んでいくと誤解される方がおられると思いますが、今回はあくまで今後こういった検討をしたいという委員会報告だと私は考えております。当然、これから調査・研究していく中で条件が折り合わないということが出てきたら、ちゅうちょなく事業全体の見直しを行っていただきたいと思いますし、そうでなければ議会の賛同もなかなか得られないということも十分理解して事業に当たっていただきたいと思います。

副委員長 それでは、これで私の委員長としての職務は終了しましたので、委員長と代わります。

〔副委員長と委員長の交代〕

大島委員 私も辞めどきが分からない議員でございまして、議員とはなかなか辞めどきが分からないものであります。

歴史をたどれば、前田正甫公がつくった富山の売薬は、母である八尾様とその始まりという話もありまして、富山の薬が流通したのは包み紙に八尾の和紙が使われたことなどいろいろな要因があります。そういったものを絡めながら薬に特化して、本当にとがった施設にしてもらいたいという気持ちがあります。今の部長のお話を聞いて少し安心しましたが、観光客にあれもこれもこびるような施設にだけは絶対にしてほしくないという思いがありまして、外せない肝はしっかりと持っていただきたいと思います。

せっかく整備したものが富山の薬に特化したものではないと、それこそやめどきが分からないということになります。

これは要望ですが、コンサルタント任せにしないで、市職員の方々のたくさんのアイデアを取り入れていただきたいと思います。

商工労働部長 始終、御意見をいただきましてありがとうございます。いただきました御意見を念頭に置きながら何とか事業を進めてまいりたいと考えておりますので、

お力添えのほど、よろしくお願いいたします。

委員長

ほかにはないので、この程度にとどめます。
これをもって経済環境委員会を閉会します。

令和6年2月15日
経済環境委員会記録署名

委員長 久保大憲

副委員長 柏佳枝

署名委員 織田伸一

署名委員 豊岡達郎